



『諦めない』という言葉

久米川 達弥 校長



四月に本校の校長に着任しました 久米川 達弥 です。校長として母校に帰ってくる事ができ、幸せをかみしめています。皆さんと色々な場面で交流を深められたらいいなあと思っていますので、どうぞよろしくお祈りいたします。

また、教職員一同、保護者の皆様と連携を図りながら教育活動を進めて参りますので、御理解と御協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

さて、最近毎年のように自然災害が日本各地を襲っています。この四半世紀の間に日本は、阪神・新潟県中越・東日本、熊本、そして大阪北部地震と5回もの大震災に見舞われました。いつも包み込んでくれていた美しい故郷の崩壊は、おそらく、ある人の紡いできたものを一瞬に奪い、ある人の夢を壊し、ある人の夢の形を変えてしまったでしょう。しかし、逆境に敢然と対峙し、悲しみや苦しみを乗り越え生き抜こうとされる被災地の方々の姿を見たとき、人の持つ底力を感じるのみならず、逆に生きる力を与えていただくことさえあります。そんなとき、頭をよぎり、そして、皆さんに感じてほしいものがあります。それは『諦めない』という言葉です。被災地で歯を食いしばっておられる方から、アスリートから、或いは文化の伝承者から、そして芸術家から・・・異口同音に聞かれる言葉です。共通するのは、いずれも何かに挑む人たちであるということです。前述のとおり、災害によって、またはケガや事故で、さらに自身の考え方の変化など、夢や目標の軌道修正を余儀なくされることはあります。しかし、今、私が伝えたいのは、決して簡単に『諦める』という言葉を使ってほしくないということです。

『諦める』広辞苑（電子辞書）によると、「思いきる。仕方がないと断念したり、悪い状態を受け入れたりする。」とあり、例文として、「進学を諦める」「こうなるのも運命と諦める」などが挙げられています。語源を調べると、『事情などをはっきりさせる意味の「明（あき）らむ」が、近世以降、心の中にはっきり決める、迷いを断ち切る意となり、さらに転じて、断念する意味へと変化した。「諦」は字義から当てたもの。』などとなっています。

こういったことを参考にして、『諦める』という言葉はどう解釈して来たか、私の持論を紹介したいと思います。

- ①『諦める』は、「明らかに 極める」が重なってできた言葉である。
- ②『諦める』は、「言」と「帝（世界をとりまとめる最高の神や、地上をおさめる最高の支配者 などの字義）」に分かれる。

つまり、「帝」から、『よくやった。そこまでで十分だ。』とねぎらいの言葉をかけられるほど、「明らかに極める」ために挑み続けた者だけに許される境地が『諦める』である。

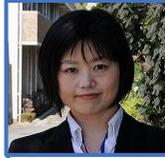
これはあくまでも私のとらえ方であり、簡単に物事を投げ捨てたり、助けを求めたりしないよう己を戒めるために使ってきた極めて個人的な解釈です。しかし、敢えて皆さんに、この言葉を贈ります。皆さんにとって「帝」は誰なのかはわかりません。家族のどなたか、或いは先生、先輩や親友かもしれません。または、心の師と仰ぐ著名人か架空の人物でしょうか。自分の目標や夢の達成のため、そしてその先に続く道のりを生き抜くために、「明らかに極める」まで挑み続けてほしいと思います。そして、自分にとっての「帝」から「お疲れ様」とねぎらわれ、『諦める』という言葉を使うことが許されるまで、やり切りたいと願っています。

『ふり返ることなく 時を刻み』

ふり返りたくなる 時を刻む』



平成 31 年度 新転任者紹介



あんどう かな
安藤 佳奈先生 (国語)

洛東高校を初めて訪れた日、同じ新規転入の先生方と、洛東坂の桜が咲いたらさぞ見事なことだろうとお話しました。そして四月、毎日、美しく咲き誇る桜を眺めながら、洛東高校の門に向かう生活が始まりました。今では私の中で、洛東高校=桜のイメージがすっかり定着しています。この桜に見守られて将来へ進んでいく皆さんの歩みを、精一杯サポートしたいと思います。一緒に頑張りましょう！



なかしょう や おさむ
中庄谷 修先生 (国語)

洛東高校は、昭和の終わりから平成の初めまで勤務していました。北館の完成は目にしましたが、本館は、シンデレラ階段のある、昔の白亜の学び舎でした。平成の終わりに再び赴任できてうれしく思ってます。平成が終わり令和を迎えるのですから、長い年月の間に、校舎だけでなくいろいろなものが変わりました。でも、生徒たちのパワーは、洛東坂の満開の桜のように、いつの時代も力強く華やかなものと信じています。



ひらい たまえ
平井 玉江先生 (養護教諭)

鴨沂高等学校の定時制課程で定年退職し、3月の閉制とともに終わる予定でしたが、縁あって、洛東高等学校でお世話になることになりました。気持ちを新たに、また頑張りしたいと思います。よろしくお願いします。



しまざき かなこ
嶋崎 華奈子先生 (数学)

4月の始業式の頃、洛東坂の桜は、素晴らしかったです。近所の人達も桜を見にこられていて、私も皆さんと一緒に毎年楽しみたいと感じました。自然に恵まれていて、ぜひ周囲を散策したいと思います。この度、ご縁があって1・2年生の授業を担当します。どうぞよろしくお願いいたします。数学をラクして学ぶ方法はないので、毎日少しずつコツコツ丁寧に問題を解きましょう。わからないときは、先生に質問したり、友達と教えあったりしてください。



おやまだ かずえ
小山田 和枝先生

(まなび・生活アドバイザー)

今回はご縁があり『お茶の京都』宇治市立木幡中学校から転任してまいりました。今までは中学校での勤務ばかりで、高校勤務は初めてとなります。そのため、慣れない点もあるかと思えます。皆さんに色々教えていただくことになりそうです。気軽に話しかけてください。楽しく豊かな時間を一緒に過ごし、成長したいと考えています。よろしくお願いいたします。



ひらい きょうこ
平井 恭子先生

(初任者指導)

皆さん、こんにちは。平井恭子と申します。今年度新規採用の国語科石田和大先生、保健体育科中村友紀先生の指導役として赴任いたしました。授業や行事を参観させていただきます。いろんなことに元気いっぱい頑張る姿を見せてください。1年間よろしくお願いいたします。



にしだ ようこ
西田 陽子先生 (英語)

英語を教える中で、わたし自身がたくさんのことを学んできました。英語そのものに詳しくなったのは当たり前ですが、環境問題や他国の文化・歴史、人権や平和の問題についても知り、より深く考えるようになりました。日本語で文章を書く力もついてきたと思います。「自分には関係ないこと」というのは、実は存在しないのだと思うようになりました。「正しく働き、正しく生きる」ためにも、これから一緒に学んでいきましょう。



いしばし たもつ
石橋 保先生 (美術)

お隣の東稜高校から参りました。石橋 保です。数年前、テニスの練習試合でお邪魔したときに、疏水や毘沙門堂もある、自然豊かな素晴らしい環境をうらやましく思っていました。この度、ご縁があってその洛東高校に勤務できることとなりとても嬉しく思っています。教科は美術を担当します。明るく元気な皆さんとの学校生活を楽しみにしています。



かたおか ちか
片岡 愛先生 (家庭)

北桑田高校美山分校から転勤してきました。担当教科は家庭科です。高校生活は瞬きのごとく、まぶしく過ぎていきます。「素敵に輝いて」、皆さんの貴重な時間を一緒に過ごせることがうれしいです。どうぞよろしくお願いいたします。



まつお しんじ
松尾 真次先生 (地歴公民)

初任から6年間、鳥羽高校定時制で勤務し、この4月から洛東高校で勤務することになりました。私は洛東高校出身で、高校時代はサッカー部に所属していました。このたび母校に帰って来られたことをとても嬉しく思っています。生徒のみんなが洛東高校に通って良かったと思えるように、そして、みんな一人一人が素敵な大人になれるように、頑張っていきたいと思えます。うっとうしいこともありますが、よろしくお願いします。



ほんごう かんた
本郷 寛太先生 (介助職員)

初めまして。今年度より、洛東高校で常勤介助職員としてお世話になります、本郷と申します。僕は、しゃべることが好きなので見かけたらどンドン話しかけてください。自分自身、初めての全日制高校なので、分からない事、戸惑う事があると思います。困ってるな~と思ったら助けてくれると嬉しいです。よろしくお願いします。



やまもと きょうこ
山本 恭子先生 (英語)

英語科の山本恭子です。昨年度は向陽高校におりました。生徒の皆さんがより良い高校生活を送れるよう、微力ではありますが、しっかり指導していきたいと思っています。よろしくお願いします。